

自分たちでつくる発表会 ～絵本をもとにした創作劇～

1 活動の概要

日常の教育・保育活動で行われている遊びや絵本の読み聞かせをもとに、園児が自分たちで発表会の内容を創作し、発表会につながる活動を行っている。発表会の準備期間は、およそ1か月程度で、発表会は毎年、年長と年中の各クラスで1回開催している（年長が12月、年中が2月）。

2 活動の状況、実際

毎日の読み聞かせをもとに、発表会の劇の台本（セリフや動作）を園児たちが創作し、発表会につなげている。絵本をそのまま劇化することもあるが、令和6年度は『オオカミと7ひきの子ヤギ』、『ロボットカミィ』の2つの絵本のストーリーを混ぜ合わせ、『ロボットと9人の子どもたち』というオリジナル物語を創作し、発表した（3つの絵本を合わせる場合もあり）。

どの絵本をもとにするのか、どのようなストーリーにするのかなどは、すべて園児たちが話し合っていて決めている。どの創作劇も園児の思いや願いを大事にして活動を進めている。

【ストーリーを決める話し合いの様子（一部）】 T：先生 C：園児

T：今年の発表会は『ロボットカミィ』と『オオカミと7ひきの子ヤギ』の2つの絵本を合わせるところまで決まったけれど、どうしようか？

C：オオカミをロボットに代えるといいと思う。

C：でも、そうしたらロボットは悪いままでお話しが終わっちゃうよ。本当のお話だと、最後はいいロボットになっていたよ。

C：じゃあ、最初はロボットがいじわるだけど、最後は「ごめんね」して仲直りするのかな？

C：ロボットは紙でできているから水をかけると、こわれるね。

C：じゃあ、悪いことしてたときに、水をかけて、それでごめんなさいして仲よくなるのかな？

C：それいいね！バケツに水色のスズランテープを入れれば水に見えるよ！

C：子どもが隠れる時計も作らないといけないね。7人だから大きくしなきゃ。

※先生は、ファシリテートに徹する。「どうする？」「どうしたい？」などと声をかけ、園児の発言を次々に引き出し、価値付けしていく。



創作劇に必要な衣装や小道具を作成する園児たち



「こんな感じでどうかな？」友達と関わりながら作ります



みんなのアイデアでセリフや動きを決めていきます

3 参加者、指導者等の声

- 自分たちの思いやアイデアをもとに創作劇（物語）ができあがっていくので、園児からは「次は～を作ろう！」「こんなセリフを入れたい！」という意欲的な声が聞こえ、主体的に取り組む姿がたくさん見られます。活動後には「楽しかった！」という満足感や達成感を味わっている様子も見られます。
- 発表会を上手にやり遂げることも大事ですが、それ以上にクラスのみんなで発表会をつくりあげる過程を大事にしています。保護者には、創作劇ができあがるまでの園児の様子（ストーリーを相談する過程や小道具を製作する過程等）について、プレゼンテーションソフトを使って説明し、発表会本番に表れない部分の園児の頑張った姿もぜひ、認め、褒めてあげてほしいと声を掛けています。